

## 予想外

第5期生 松山 昌司

小野ゼミに入り、電通論文を書き、電通論文で大賞を取り、そして電通に内定を貰い、4年では国外に逃亡すること、これが2年の3月密かに考えていた計画である。実際、このことしか考えていなかった。合格者番号が貼られている掲示板の前で番号があったのを見て喜びの余り有吉と初めて握手したまでは計画通り順調であった。しかし、それからが自分の予想とはかけ離れていた。とてつもなく多い課題の量、毎日の集まり、先生の威圧感、すべてが予想外であった。次の計画であった電通論文執筆には上手く漕ぎ着けたものの、お題の曖昧さや論文チームのまとまりの無さ、なかなかアイデアが出ずにチーム内で言い争う毎日(いつも韓可のせい)は自分にとってこれもまた予想外だった。少し時間を早送りすると、2008年の2月に電通論文が入賞すらしなかったこと、4月に電通から連絡がこなかったこと、これもまた予想外だった。

ここからはとてもベタな文章になるが、再び時間を巻き戻してみると、身体は大人、頭脳は子供の有吉、女帝絵美、批判しか言わない韓可、ラリー松川、口から生まれた鷺見、意外にいつつこみしんちゃん、恥ずかしがり屋の天才石崎、ガリガリのタナショー、SASなら崇志、なんでも高崎さん、優しい伊佐次、ホ



2008年春合宿にて。緊張気味の6期と相変わらずの5期。著者は2列目右端

ントはデキル近澤、ドスケベまっさん、色々でかい河野、プレゼンの細川、インテリの千葉、プライドの池谷、肉のゼミ長、静岡では別人大二郎といった個性溢れる5期生、とても優しいOB(特に森岡さん)、そして僕らのバカにも付き合ってくれ、ゼミに関して寝る間も惜しんで注力してくれる小野先生、この人たちと出会えたことは自分にとって予想外であった。ソフトボール大会で優勝できたことこれも予想外であった。川で濁流に流されたこと、夏ケースの執筆があればどこまでキツイものであったこと、しんちゃんの家で男子みんなで合宿したこと、卒論を執筆することがこれ程までに労力がいる、研究することがこれ程までに楽しいこと、森本と同じ会社に勤めること、予想外の出来事は数え上げればきりが無い。

予想外の出来事がこの2年間あったが、これらの予想外は今振り返ってみると、どれもいい思い出である。みなさんどうもありがとうございます。楽しかったです。